

19年度大学入試問題、私立71大学が企業等に外注！ 文科省、各大学へ問題の自校作成と 慎重な対応を通知。

国語・数学・外国語などの外注が目立つ。

旺文社 教育情報センター 19年7月

文部科学省(以下、文科省)はこのほど、19年度大学入試問題の作成に係る外注状況を調査し、公表した。

19年度において学生募集を行っている国公私立741大学中、入試問題を外注しているのは私立71大学で、国公立大はなかった。

文科省は、入試問題は各大学のアドミッション・ポリシーに基づき、自校作成が基本だとし、慎重な対応を促す通知を各大学に通知した。

< 19年度大学入試問題作成の外注状況 >

1. 調査対象

- 国公私立大学 741大学

(19年度学生募集を停止、及び通信教育課程のみを置く大学を除く)

2. 外注している大学数

- 71大学(国立=0、公立=0、私立=71)

3. 外注の程度

- 試験教科・科目について、
 - 全てを外注=18大学
 - 一部を外注=53大学

4. 外注先

- 企業=62大学
- その他の外部機関=11大学

5. 教科別の外注状況

国語	地理歴史	公民	数学	理科	外国語
49	29	15	41	31	41

(校数)

< 試験問題作成に当たっての留意点 >

文科省は7月3日、次のような試験問題作成に当たっての留意点を各国公私立大学長宛に通知した。

平成19年7月3日

各国公私立大学長 殿

大学入学者選抜における試験問題の作成に係る外注について(通知)

記

1. 大学入学者選抜は、受験生がそれぞれの大学の教育を受けるのに必要な能力・適性等を有しているかどうかを判定するものであり、試験問題の作成は、各大学の受け入れ方針に基づき、各大学が自ら行うことを基本とすること。
2. 外部の機関等に試験問題の作成を行わせることは、大学入学者選抜の機密性や公平性、中立性の確保の観点から、社会的な疑念を招くおそれがあり好ましくないことから、慎重に対応すること。

(前文は省略)